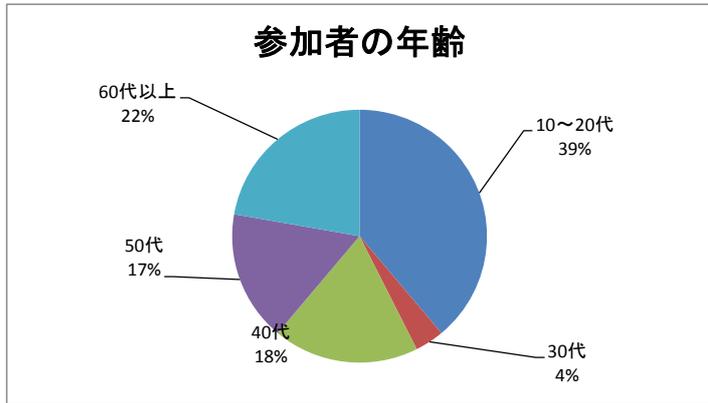


平成30年度「しがこども体験活動実践交流会」 アンケート結果

■期 日：平成31年2月1日（金）
 ■会 場：県庁新館7階 大会議室
 ■対 象：参加者64名中54名より回答（回答率 84.4%）

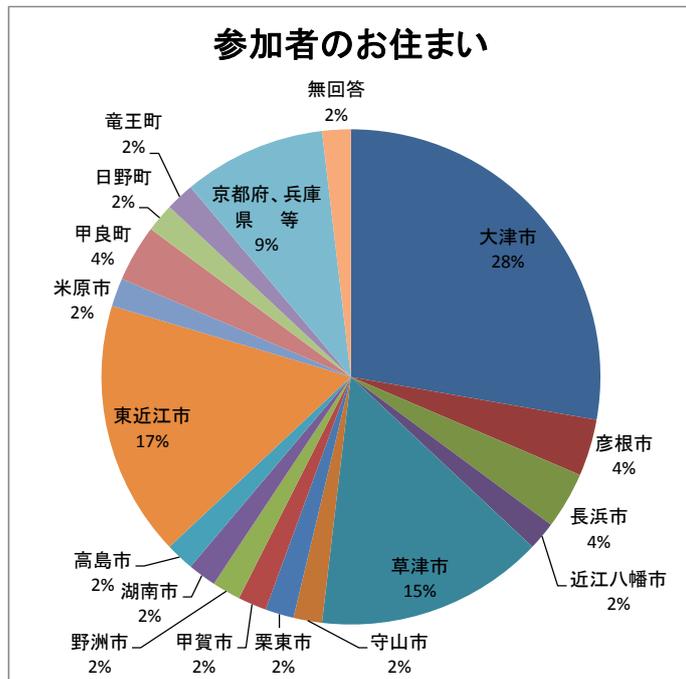
Q1・参加者の年齢

	年 齢	人数	割合
1	10～20代	21	38.9%
2	30代	2	3.7%
3	40代	10	18.5%
4	50代	9	16.7%
5	60代以上	12	22.2%
合計		54	100%



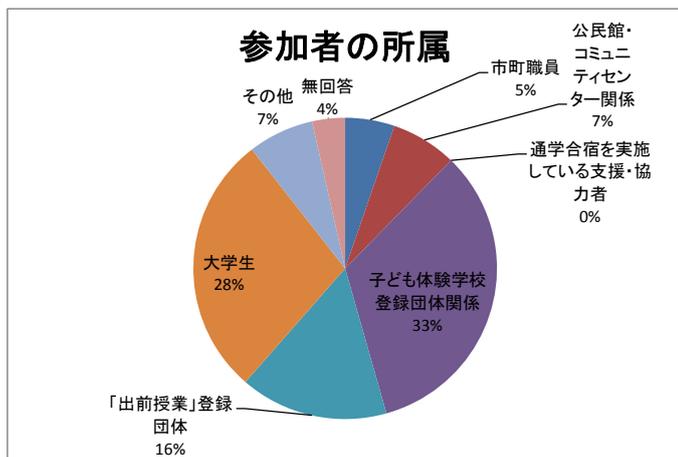
・参加者のお住まい

	市町名	人数	割合
県内	大津市	15	27.8%
	彦根市	2	3.7%
	長浜市	2	3.7%
	近江八幡市	1	1.9%
	草津市	8	14.8%
	守山市	1	1.9%
	栗東市	1	1.9%
	甲賀市	1	1.9%
	野洲市	1	1.9%
	湖南市	1	1.9%
	高島市	1	1.9%
	東近江市	9	16.7%
	米原市	1	1.9%
	甲良町	2	3.7%
	日野町	1	1.9%
	竜王町	1	1.9%
	県外	京都府、兵庫県 等	5
	無回答	1	1.9%
合計		54	100%



・参加者の所属(複数回答あり)

	所 属	人数	割合
1	市町職員	3	5.3%
2	公民館・コミュニティセンター関係	4	7.0%
3	通学合宿を実施している支援・協力者	0	0.0%
4	子ども体験学校登録団体関係	19	33.3%
5	「出前授業」登録団体	9	15.8%
6	大学生	16	28.1%
7	その他	4	7.0%
	無回答	2	3.5%
合計		57	100%

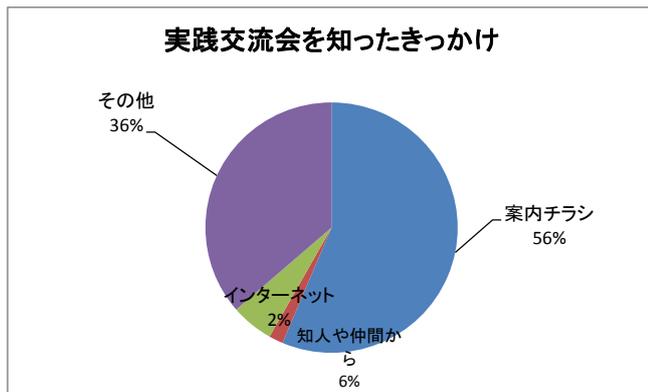


※7 その他
 ・教員採用者
 ・教師塾
 ・社会教育実習他

Q2 実践交流会を何で知りましたか
(複数回答可)

	方法	人数	割合
1	案内チラシ	31	56.4%
2	インターネット	1	1.8%
3	知人や仲間から	3	5.5%
※4	その他	20	36.4%
合計		55	100%

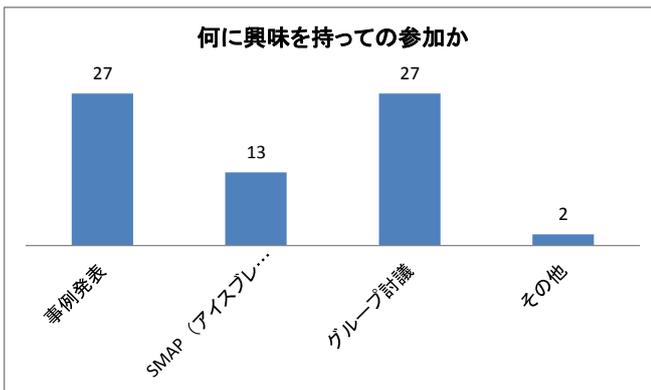
※4 その他
 ・県からの案内通知
 ・教師塾の選択講座
 ・メール 等



Q3 どのようなことに興味をもって参加しましたか?
(複数回答可)

	内容	人数	割合
1	事例発表	27	39.1%
2	SMAP(アイスブレイク)	13	18.8%
3	グループ討議	27	39.1%
※4	その他	2	2.9%
合計		69	100%

※4 その他
 ・他の団体を知る 等

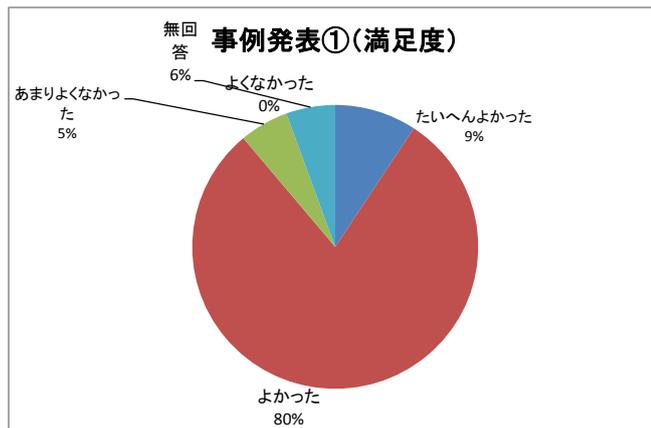


Q4 それぞれの内容について、感想を選んでください。

(1) 事例発表①五個荘コミュニティセンター「てんびんの里ふれあい通学合宿等」の取組について

	満足度	人数	割合
1	たいへんよかった	5	9.3%
2	よかった	43	79.6%
3	あまりよくなかった	3	5.6%
4	よくなかった	0	0.0%
5	無回答	3	5.6%
合計		54	100%

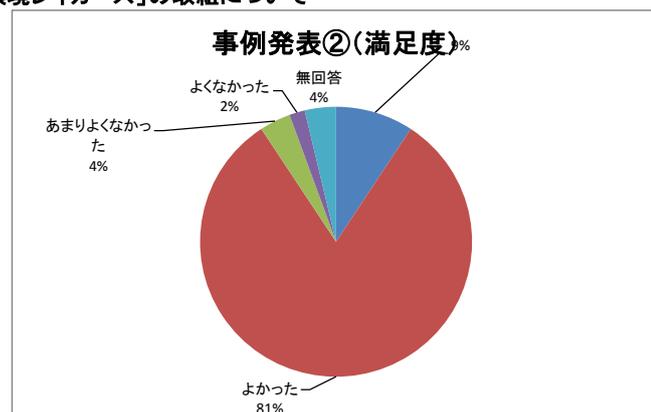
※感想等については、別ページに記載



(2) 事例発表②しがこども体験学校事業実施団体「環境レイカーズ」の取組について

	満足度	人数	割合
1		5	9.3%
2	よかった	44	81.5%
3	あまりよくなかった	2	3.7%
4	よくなかった	1	1.9%
5	無回答	2	3.7%
合計		54	100%

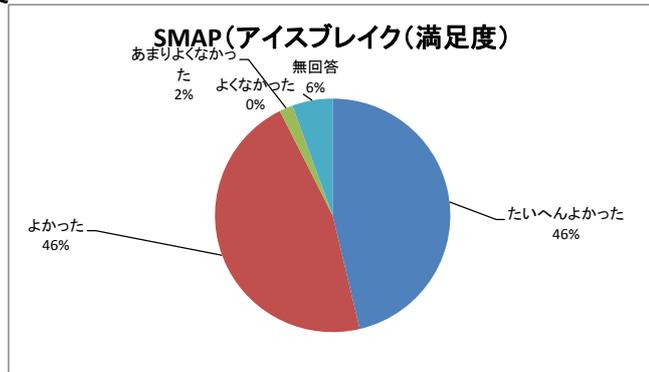
※感想等については、別ページに記載



(3) 体験活動に役立つSMAP(アイスブレイク)について

	満足度	人数	割合
1	たいへんよかった	25	46.3%
2	よかった	25	46.3%
3	あまりよくなかった	1	1.9%
4	よくなかった	0	0.0%
5	無回答	3	5.6%
合計		54	100%

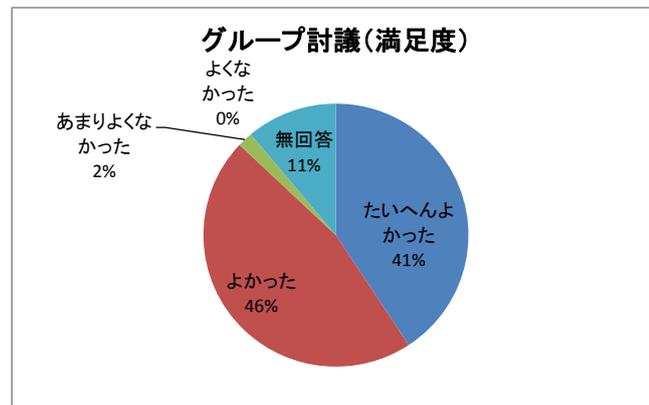
※感想等については、別ページに記載



(4) グループ討議について

	満足度	人数	割合
1	たいへんよかった	22	40.7%
2	よかった	25	46.3%
3	あまりよくなかった	1	1.9%
4	よくなかった	0	0.0%
5	無回答	6	11.1%
合計		54	100%

※感想等については、別ページに記載



Q4 感想等(一部抜粋)

1 たいへんよかった 2 よかった 3 あまりよくなかった 4 よくなかった

満足度	(1)事例発表①「五個荘コミュニティセンター通学合宿てんびんの里ふれあい通学合宿」の取組について
1	地元の小学生に向けた取り組みで、地域のコミュニティ形成にも大きく貢献できるとも良い取り組みだと思う。
2	阪神・淡路大震災を経験しましたので、今の子どもたちにも「協働」することにより、いろんなことへの「気付き」があると思います。
2	「通学合宿」という、これまであまり聞いたことのない取り組みで、非常に勉強になりました。

満足度	(2)事例発表②こども体験学校事業実施団体「環境レイカーズ」の取組について
1	子ども向けの環境教育の実践として、とてもよい取組だと思う。参考にしたい。
2	子どもたちと大人とのふれあい、地域の人とのふれあいがあるということはよいことである。サポーターが大切になる活動だと思った。
2	滋賀県の自然豊かな環境を上手く生かした体験活動をされていて、もっと参加して欲しいなと思った。参考にさせていただけたらと思います。

満足度	(3)体験活動に役立つSMAP(アイスブレイク)について
1	子どもに対してだけでなく、すべての人に対してできるアイスブレイクを知ることができた。
2	自己紹介に一つ加えることで、場の雰囲気が変わることが実感できた。
3	時間が短かった。

Q5 次年度(平成31年度)の第1回しがこども体験活動指導者研修会では、講演後にグループでのワークショップや協議を予定しています。その内容について、ご希望がありましたら、ご自由にお書きください。
主催者側とボランティアの方々の関係、ボランティアの協力への声かけ、ルール、人員の確保など
滋賀県の子どもの学力低下問題について
学校の先生と一緒に話が出来ると良いです。

Q6 内容に対する御意見・御感想
討論会はとても面白かったです。良い刺激になりました。
学校との連携に苦勞している団体が多く、活動費が少ない為、イベント等の参加費が高くなっているのが現状です。
学校と事業団体が上手くつながれば、より良い自然体験活動ができると思いました。